

第 2 回受入環境調査検討部会

～検討方針～

1. 受入環境整備の目的

「山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書」が世界記憶遺産に登録されたことを契機に田川への来訪者が増加しているが、この遺産を収蔵する田川市石炭・歴史博物館に至る交通アクセスや誘導案内機能をはじめ、来訪者の利便性が高いとは言えない状況にある。

また、現在の石炭・歴史博物館にあつては、収蔵している遺産を展示する空間も十分でなく、その機能拡充が不可欠である。さらには、今後、九州・山口の近代化産業遺産群の世界遺産登録に向けた動きとも連携しつつ、世界からの観光客を受け入れ、我が国の産業の近代化に大きな役割を果たした筑豊炭田の歴史文化とその意義を伝え、地域の活性化につなげていくため、これに資する拠点やインフラ、体制等の整備拡充が不可欠である。

本部会では、上記の背景認識に基づき、来訪者の受入環境の整備のあり方について調査検討を行うものである。

2. 検討の流れ

受入環境として必要な事項は多岐にわたるため、中でも優先度の高い項目に焦点をあてて検討する。

○早期に対応が必要な事項

記憶遺産の展示、来訪者の誘導等、受け入れの基盤となる施設については早期に検討する必要がある。

- ・石炭記念公園のあり方
(例：収蔵展示のための新施設、駐車場 等)
- ・交通誘導のあり方
(例：来訪者のルート、案内サイン、鉄道・バス等のアクセス改善、情報発信等)

○中長期的に対応が必要な事項

上記拠点への来訪を促し、利便性を向上させるものとして整備主体、体制等を含めて検討が必要である。

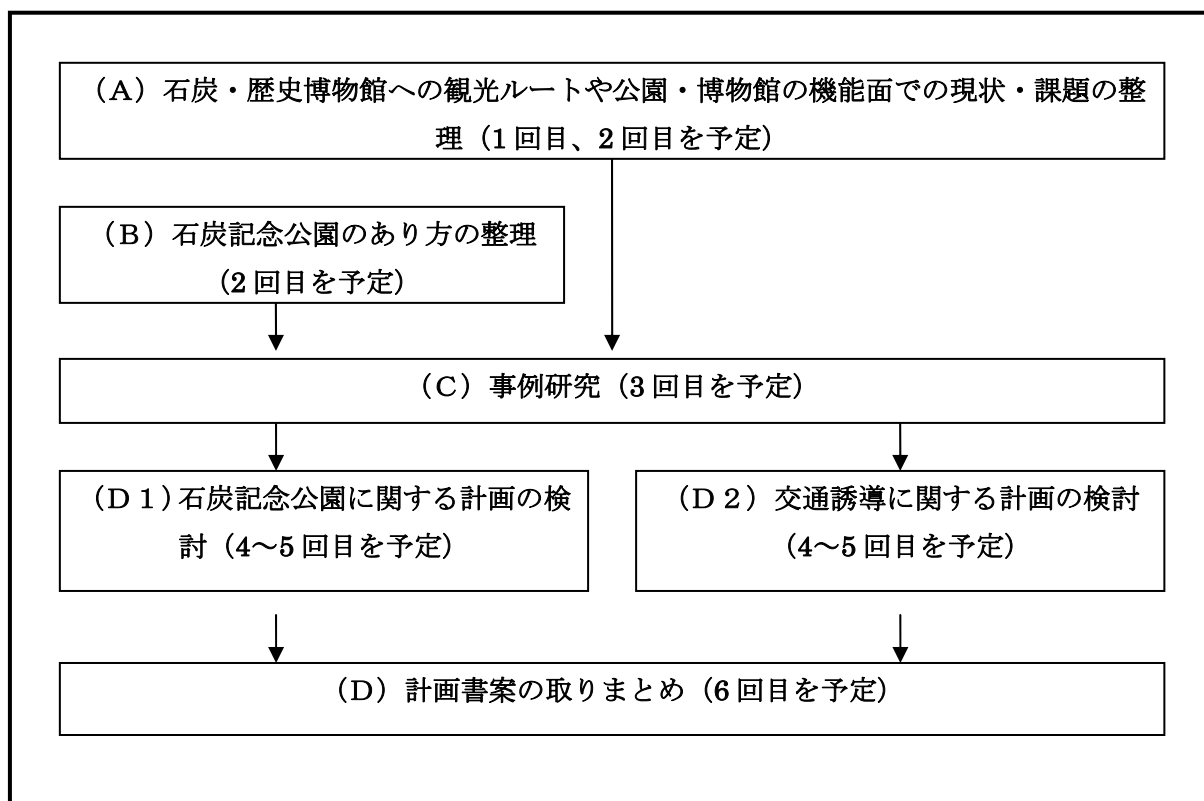
- ・宿泊施設、商業施設、観光・娯楽施設、飲食施設
- ・受入体制



本部会において優先的に検討が必要な事項として、主にハード面の環境整備に関する今後の対応、特に①石炭記念公園の整備、②交通誘導機能の拡充を対象とする。

前述の2項目を以下の流れで検討することを想定する。なお、事例研究では、国内外の世界遺産におけるビジターセンターや案内サイン等の事例を収集整理し、計画策定の参考とする。

<受入環境調査検討部会の検討の流れ>



3. 検討の論点

第1回部会で議論された課題等を踏まえ、受入環境の整備にあたって今後検討すべき論点として以下が考えられる。今後の他部会での検討状況も反映しつつ、計画を検討していくものとする。

○ 石炭記念公園関連

- ✓ どのような機能が必要となるか
 - ⇒資料「石炭記念公園のあり方の整理案」
- ✓ 求められる機能に応じた施設・規模
 - －新記念館・ビジターセンター／駐車場／物販 等
 - －想定される機能、需要
- ✓ 新記念館・ビジターセンターの配置
 - －既存施設の転用／新規建設
- ✓ 来訪者にとっての交通アクセスの利便性の向上
 - －鉄道駅から記念公園のアクセス（田川伊田駅から（線路横断等）／後藤寺駅から（バスの活用等））
- ✓ 石炭記念公園にふさわしい景観のあり方
 - －眺望／建物外観／素材
- ✓ 各施設整備・活用の手法
 - －財源／体制

○ 交通誘導関連

- ✓ 外部からの観光客をどう誘導していくのか
 - －市外からの観光ルート（自家用車、鉄道、バス）の設定
 - －交通案内サインのデザイン・配置、マップの整備（案内表示板の整備）
 - －外国語対応
- ✓ 市内の回遊性をどう確保していくのか
 - －市内の観光ルート（自家用車、鉄道、徒歩、バス）の設定・情報発信
 - －コミュニティバスの拡充、パークアンドライド
 - －観光ルート沿道の環境整備（沿道の景観誘導、美化等）
- ✓ 各手段をどのように実現していくか
 - －整備主体
 - －財源措置
 - －管理運営体制